

画像工学同窓会会報

ご挨拶

情報画像工学科長

立田 光廣

近年、「情報化社会」という言葉は耳新しい響きがうすれ、ごく普通に使用されるようになりました。また、ブロードバンドインターネットのめざましい普及により、これまで以上に画像情報が身近にあふれるようになりました。

千葉大学工学部においては、平成10年4月に情報工学科と画像工学科が融合して情報画像工学科となつてより6年が経過し、当学科を取り巻く社

会情勢や学生のニーズも変化してきました。この変化に柔軟に対応するため、本年4月、学科改組を行いました。また、情報画像工学科のすべての学生が、情報画像分野の教育内容をバランスよく学ぶことをめざして、カリキュラムを大幅に変更いたしました。くわしくは「学科の近況」をご覧ください。

本年4月は国立大学が独立行政法人という新しい組織に生まれ変わった時でもあります。これは、教官の身分が

国家公務員でなくなったという表面的な変化にとどまらず、非常勤講師制度の根幹がゆらぐなど、予算面・人事面できびしい試練に直面しています。一方、大学・学部・学科の各レベルで、中期目標・中期計画を明示するという形で、さまざまな改革に取り組んでいます。このような背景のもとで、私たちは、これまでに築き上げられた「文化」の1つ1つの意義を見直しながら、教育・研究をすすめていきます。

画像工学同窓会第5回技術講演会のお知らせ

総会の前の時間に下記の技術講演会を開催します。自由に語って頂ける気楽な講演会です。是非、お誘い合わせの上、ご参加下さい。昨年度のIGAS2003の時と同様に今年度もPAGE2005の開催時に同じ場所にて講演会を開催することにしました。機材展に参加と同時に技術講演会に参加頂けますようご案内申し上げます。なお、ご参加の有無を同封の振込み用紙に記入の上ご送付下さい。

記

日 時：2005年2月3日(木)14:30～16:00
テ ー マ：『21世紀の画像技術を語る～第4弾～』
場 所：サンシャインシティ文化会館705会議室
参加費：無 料

講演(1)「帆風の歩み - 変身と躍進の軌跡 -」
(株)帆風 代表取締役社長 犬養俊輔(昭和45年卒)

講演(2)「オンデマンド印刷の現状と今後の展望」
富士ゼロックス・プリンティングシステムズ(株)
代表取締役社長 堀江 潔(昭和43年卒)

講演(3)「快適な画像再現のための知的画像処理」
千葉大学工学部情報画像工学科 教授 小寺 宏暉

PAGE2005の情報 <http://www.jagat.or.jp/page/index.htm>

総会・懇親会のお知らせ

平成16年度の定時総会および懇親会を下記のように開催致します。今回も昨年度のIGAS2003と同様に多くの方に参加頂けるようPAGE2005の開催と合わせて総会および懇親会を開催致します。是非、皆様お誘い合わせの上、ご出席下さいませようご案内申し上げます。

記

開催日：2005年2月3日(木)
総 会：16:30～17:00
場 所：サンシャインシティ文化会館708会議室
議 題：平成15年度事業報告、会計報告
平成16年度事業計画、予算案

懇 親 会：17:00～
場 所：サンシャインシティ文化会館705会議室
会 費：5,000円 当日お支払いください。

出席される方は、同封の振込み用紙の出欠欄にご記入の上、1月20日(木)頃までに到着するようにお早めにお申込み下さい。

サンシャインシティコンベンションセンターTOKYO
〒170-8630 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号
交通：池袋駅東口から徒歩8分
東池袋駅(地下鉄有楽町線)2番出口から徒歩3分
<http://www.sunshinecity.co.jp/information/access.html>

学科の近況 情報画像工学科

学科長 立田 光廣

改組

平成10年4月に情報工学科と画像工学科が融合して情報画像工学科となり6年が経過した本年4月、学科名は従来通りとしつつ、講座編成とカリキュラムを変更し、以下のように学科改組を行いました。

1 講座編成

従来の4講座18教育研究分野を改編し、以下の3講座18教育研究分野編成としました。

(1) 情報画像基礎工学講座

情報と画像の発信、伝送、受信、変換、処理、表示のためのマテリアルと、それらを行うデバイスからシステムまで、情報社会を豊かにするための情報と画像の基盤技術に関する教育・研究を行います。

(2) 情報画像プロセス工学講座、

微細高速情報素子形成、画像デバイス形成、画像形成、ソフトウェア設計、大規模ネットワーク設計などの形成ならびに設計プロセスを対称にした教育・研究を行います。

(3) 情報画像人間工学講座

人間の五感を通しての情報の受信、獲得、伝達、脳内処理、学習、情報の発信など新学科組織を表に示します。

2 カリキュラム

平成16年度より、情報画像工学科のすべての学生が、情報画像分野の教育内容をバランスよく学ぶことをめざして、従来の情報・画像材料・画像システムの3コース制をなくし、すべての学生が1つのカリキュラムを履修するように変更いたしました。新しいカリキュラムでは、まず専門教育に入る前に 数学 物理 化学の実験を含む基礎学力をしっかりと身につけてもらいます。専門教育は 情報画像工学に関連した実験 プログラミング演習から始まり「マテリアル」「光学」「画像と人間」「マルチメディア情報処理」「情報工学」「数理・統計」の系列からなる専門科目が段階的かつ体系的に配列され 総合的に学

習できるようにしています。4年次には1年間の卒業研究を行い最先端の研究に触れて多くの体験を積むことができます。

教官異動等

訃報 遠山政夫先生:印刷工場の運営を長年担当していただいた遠山政夫技官は、本年7月30日、病のため60歳の若さでご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

退官 大野隆司先生:写真感光材料としての特性のみならず、ホログラム記録、医療、食品などへの応用まで、ゼラチンの大家として研究に、教育に、また学科の運営に貢献してこられた大野隆司教授は、本年3月末日をもって定年退官されました。

山岡亞夫先生:感光性高分子材料の化学反応に関する基礎研究から、高感度化・高機能化応用までの幅広い研究と、多くの人材育成、ならびに学科の運営に努めてこられた山岡亞夫教授は、本年3月末日をもって定年退官されました。

杉浦恪也先生:古典印画法の研究を進められるかたわら、写真撮影の機会ある毎にお世話になった杉浦恪也助手は、本年3月末日をもって定年退官されました。

諏訪純先生:ウェーブレット解析を用いた海洋構造の研究等、海洋物理学、海洋工学の分野の研究を進めてこられた諏訪純助手は、本年3月末日をもって退官されました。

転出 塩入諭先生:運動視・立体視など人間の視覚処理機構の解明の研究をされている塩入諭助教授は本年4月1日付けでメディカルシステム工学科教授として転出されました。

大沼一彦先生:眼球光学系の性能評価等の研究をされている大沼一彦助教授は、本年4月1日付けでメディカルシステム工学科に転出されました。

新任 阪田史郎先生:本年4月1日付けで情報通信ネットワーク工学教育研究分野に阪田史郎教授を迎えました。大学が法人化され企業感覚が求められる折り、活躍が期待されます。

昇任 星野勝義先生:本年4月1日付けで微細画像プロセス工学教育研究分野の教授に昇任されました。

小林範久先生:本年4月1日付けで電子光情報マテリアル工学教育研究分野の教授に昇任されました。

新しく昇任されたお二人の先生方の一層のご活躍が期待されます。

名誉教授

大野隆司先生
山岡亞夫先生

本年3月をもって定年退官されました大野隆司教授ならびに山岡亞夫教授に対し、5月17日に名誉教授の称号が授与されました。

講座	教育研究分野	教授	助教授	助手	技官
情報画像 基盤工学	情報システム基盤工学	谷萩隆嗣	呂 建明	関屋大雄	
	計算機システム工学	伊藤秀男	北神正人	難波一輝	加藤健太郎
	情報基盤マテリアル工学	森田 浩	日野照純	岩崎賢太郎	
	電子光情報マテリアル工学	小林範久	小関健一	石井千明	
	光情報工学	本田捷夫	椎名達雄	田中豊英	
情報画像 プロセス工学	画像物理工学	立田光廣	尾松孝茂	(選考予定)	
	ソフトウェア工学	井宮 淳	今泉貴史		
	情報通信ネットワーク工学	阪田史郎	岸本 渡		
	画像プロセス工学	長谷川朗	久下謙一	柴 史之	酒井朋子
	情報表現プロセス工学	北村孝司	中村佐紀子		(小林誠一)*
情報画像 人間工学	微細画像プロセス工学	星野勝義	高原 茂	宮川信一	
	知的画像処理工学	小寺宏暉	堀内隆彦		斎藤了一
	認識情報工学	蜂屋弘之	山口 匡		
	ヒューマンインタフェース	市川 薫	堀内靖雄	西田昌史	
	生体生命情報工学	松葉育雄	須鐘弘樹	森 康久仁	
情報画像 人間工学	像感性工学	小林裕幸	大川祐輔	青木直和	
	視覚情報工学	矢口博久	羽石秀昭		
	コンピュータイメージング	三宅洋一	津村徳道	中口俊哉	

* 後日兼任予定

卒業生・修了生の就職先紹介 Graduate

2004年3月に巣立った卒業生・修了生の就職先を紹介いたします。今後とも、諸先輩方の温かいご支援をお願いいたします。

画像系(情報画像工学科、画像材料コース・画像システムコース)
卒業生の進路

大日本印刷、朝日新聞、小森コーポレーション、T&K TOKA、帆風、毎日コミュニケーションズ、NTTコムウェア、東芝インフォメーションシステムズ、三菱電機インフォメーションシステムズ、池上通信機、小糸工業、MSKシステム開発、オービック、T00、アイテック阪神、日本銀行、類グループ、セザックス、アートデインク、日本ビジネスシステムズ、テクネッツ、TDS、ニラク、群馬県立館林女子高等学校、千葉大学大学院進学(53)、東京工業大学大学院進学(2)、奈良先端科学技術大学院大学進学、早稲田大学3年編入

像科学専攻(自然科学研究科博士前期課程)修了生の進路
凸版印刷(2)、トッパンフォームズ、共同印刷、図書印刷、ムラカミ、富士写真フイルム、キヤノン(6)、オリンパス、イマジカ、富士ゼロックス、ソニー、シャープ、東芝、三菱電機、オムロン、NTT東日本(2)、エヌティティ・コミュニケーションズ、MHTラストシステムズ、日本SGI、エムソフト、セイコープレジジョン、大和総研、日立ソフトウェアエンジニアリング、チノ、ドゥ・ハウス、新東京国際空港公団、ウェザーニューズ、放射線医学総合研究所、千葉大学大学院(2)

第1回 情報画像産学技術交流会

第1回情報画像産学技術交流会が平成16年11月19日に開催されました。これは、情報画像工学科における教育研究内容を広く社会に公開すると同時に、産業界からの社会的要望などに関する意見交換の場を設け、産学の交流を図ることを目的として企画されました。情報画像工学科の活動に協力するため画像工学同窓会が協賛いたしました。

研究室あるいは工学同窓会会報を通じて、卒業生を中心に参加者を募りましたところ、当日は、当初の予想を上回り80名を超えるご来場を賜りました。会場となった自然科学研究科新棟は、出来てまもない新しい建物でしたので、きれいではあったのですが、卒業生の皆様にはなじみが薄

く、土足禁止・禁煙という環境でしたので、ご不便をおかけしたかもしれません。

プログラムは、(1)産学交流の研究事例紹介3件(2)研究室紹介(全研究室3分のスピーチ+ポスター)(3)大学からのシーズ紹介(2件)と企業からのニーズ紹介(1件)(4)懇親会、から構成され、活発な交流が行われました。最近の度重なる学科の編成替えなどで、最近の卒業生の方にとっても、情報画像工学科の現状はわかりにくいものとなっていますので、全研究室を一気に紹介できたことはおおむね好評だった様子です。

ほとんどの参加者の方に、懇親会にも参加いただけました。同じ学年の卒業生が勢揃いした研究室もあり、



ミニ同窓会の雰囲気も一部ではありました。縦と横の拡がりを感じられる有意義な会となりました。この会がきっかけで、新しい情報画像らしい共同研究が進んでいくことが当初の(学科としての)目論見ですが、同窓会のあり方の一つを感じたのは私一人ではないと思います。

当日の詳細は学科HP(<http://www.tj.chiba-u.jp>)に記載する予定ですので、ぜひご覧くださいませようお願いいたします。

大野隆司先生が 定年ご退官されました

永年、本学科で教鞭を執られてきた大野隆司先生が、本年3月31日をもって、定年ご退官されました。また

5月17日には、先生のご功績により、名誉教授の称号が、千葉大学より贈られました。

これらに先立ち、3月19日に、千葉大学けやき会館大ホールにおいて、「写真とゼラチンから学んだこと」と題する最終講義が開催されました。当日は、卒業生をはじめ、非常に多くの方々に

お越しいただき、用意した講義資料が足りなくなるハプニングもありました。講義は、先生のライフワークであったゼラチン研究を始めとするご業績だけでなく、千葉大学入学以来、本年の「ご卒業」に至るまでの歩みを、数々の思い出とともにお話くださいました。また、講義の所々で挿入されている「格言」も健在で、卒業生にとっては懐かしくもありました。講義の後には、先生を囲んでの茶話会が開かれ、こちらにも多くの方々のご出席くださいました。

また、10月30日には、恒例となっている大野研究室OB会を拡大した、「大野隆司先生を囲む会」が、東京マリOTTホテル錦糸町東武において開催されました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、先生ゆかりの研究室の卒業生を中心に約100名の方々が参加されました。水澤先生の乾杯ご発声で始まった会は、先生と、あるいは卒業生同士での会話の弾む、和やかなひとときとなりました。



山岡亞夫先生 退官記念行事より



遠山先生ご逝去

昭和58年卒 齋藤了一

長らく印刷工場に奉職されていた遠山政夫技官が7月30日に他界され、8月2日と3日にご葬儀が行われました。6月の中旬に黄疸症状が出て入院された時は、ちょっと邪魔になっているポリープを切り取って直ぐに退院するもの、とご本人は思われていたようで、私が6月末にお見舞いした際も大変お元気そうでした。しかし、ポリープが悪性で進行が速く、手術も施されないうちに、膵臓癌で亡くなりました。享年60歳、来春の定年を迎える前でした。

私は千葉大学勤務が故国司龍郎先生の研究室からで、その初日からのお付き合いでした。私よりも古くからこの研究室とよく仕事をされていた遠山さんは、毎日の昼食に、夏の八ヶ岳合宿に、冬のスキー合宿に、と必ず行動を共にされていました。夏合宿では富士見高原

にある国司先生の別荘に毎年行っていました。ここは代々の研究室の学生と共に築き上げたもので、遠山さんのパワーや才覚に負う所が非常に大きかったようです。完成することが無い別荘で、私が初めて参加した時は、腐りかけた土台を取り替えていましたし、その後もベランダを取り替える等の大掛かりな作業が度々あり、遠山さんの超人的な活躍で我々はいつも助けられました。この研究室では麻雀好きが集まることが多く、合宿の夜には高得点の手作りを好んだ遠山さんの豪快な打ち方が今でも思い出されます。

印刷知識が何も無かった私は、写真マスクングによる3色分解、網分解撮影、カラー校正刷り等、と印刷技術を丁寧に教えて頂きました。アマチュア無線も詳しくかつ、昨今のネットワーク技術にも関心が高くて、技術的なことに対してとても造詣の深い方だったと思います。

天国で待っていた国司先生に「遠山君、来るのが少し早過ぎるよ。」と言われながら「先生、麻雀の面子でも探しましょうよ。」と答えたのではないだろうか。

ご冥福をお祈り致します。

研究室紹介 日野研究室

情報基盤マテリアル工学教育研究分野日野研究室では、シリコンの微細加工技術では限界を迎えつつあるといわれている記録素子の高集積化を、カーボンナノチューブをはじめとする巨大分子を使って克服し、次世代の超高密度記録素子(分子素子)にアプローチするために、「巨大分子の電子状態の研究」を行っています。最近では、金属原子内包フラーレンやポルフィリン系の巨大分子に着目しています。

写真は、研究に用いる装置の一部で、X線や真空紫外光を光源とした電子エネルギー分析器です。皆様にはなじみの薄い、いわゆる超高真空装置の一つですが、分子素子の開発には必要不可欠なデータを得ることができます。半導体素子を扱う電子機器や大手印刷会社の研

究所に、同様の装置がふつうにいくつも配置されています。我々の装置の特徴は、そのエネルギー分解能がきわめて高いことです。

法人化などの影響で、大学から研究室に支給される旅費を含めた研究費(いわゆる校費)は90万円に満たない厳しい現実です。しかし、我々の研究実績が評価されているせいなのか、文部科学省の科学研究補助金はこの10年間ほぼ採択され続けており、研究室には総額1億円に迫る、世界の1線級に伍する実験装置を備えることができました。これは、これまで研究室で研究活動を行ってくださった卒業生の皆さんの血の涙と汗の結晶の頭れのひとつともいえます。おかげで、いろいろな大学・企業・研

究機関から、新規試料の測定依頼(共同研究)が舞い込むのですが、こなしきれなくて悲鳴をあげている日々です。

写真: X線や真空紫外光を光源とした電子エネルギー分析器



研究室紹介
森田研究室

約13年程前(1991年)、化学物質であるアクリル酸メチルの気体試料に、試料が吸収しない波長のレーザー光を照射して化学反応が起こるのかどうかを検討した。レーザー光を数時間照射したにも拘わらず固体状の生成物は何も得られず、やはり無理な実験かとその夜は帰宅し、翌日、片付けのため、照射したセルを覗き込んだ所、セルの中に小指の先ほどの大きさの白い塊りが転がっているのを発見した。これは当初の狙い通り、レー

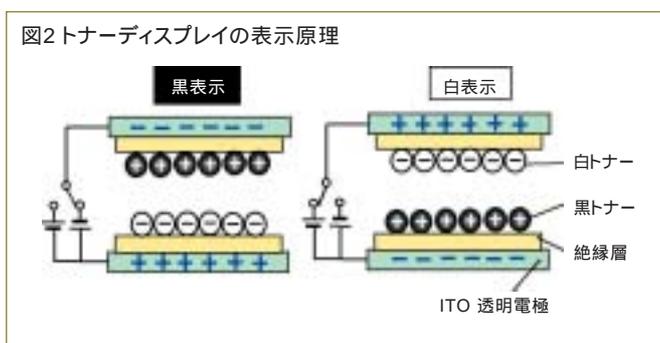
ザー光の二光子過程でアクリル酸メチルのラジカル種が気相中で生成し、その後ゆっくりとラジカル重合反応が進行してポリマーが生成したことを意味しており、反応する分子が希薄な気体試料でも二光子吸収による化学反応が容易に進行することを実感した出来事であった。この小さな経験が現在進めている研究テーマ、即ち、「気体分子から微粒子や薄膜を作製しそれを集積して素子を創る」研究の発端となった。この光化学反応を利用する研究手法は直ぐに、もう一つの実験成果、即ち、「有機薄膜に磁場を印加すると光橋かけ反応が変化する」という新規な知見と組み

合わり、新たな研究テーマへと発展した。それが今回の特定領域研究「強磁場・新機能」での研究テーマであり、レーザー光と強磁場を併用して新規な超微粒子やナノ粒子をその化学組成と形態を制御して作製し、その固定化と集積方法を考案して機能性素子を創製する研究である。今回、この研究プロジェクトに参加できたことにより、恩師の戒めの一つ「走っている電車で飛び乗ろうとするな」を守ることができ、乗合バスが迎えに来てくれたことに感謝しつつ、現在、研究室のメンバーと創意工夫してこの研究課題に取り組んでいる。

研究室紹介
北村研究室
(未来の情報紙:電子ペーパー)

紙のように薄くて軽く持ち運びができ、しかも文字や画像などの情報の書換えが可能で未来の情報紙:電子ペーパーの研究を紹介します。最近ではコンピュータを用いて書類を作成したり、電子メールで文書を取り取りすることが多くなりました。そのときには、CRTや液晶のモニターを用いて文章を確認しながら、大きさや配置を調整し、自由に作成しています。しかし、長い時間作業をするとともに目が疲れ、肩が凝ったりします。これは、モニターから直接光が発光してくる発光型表示であるためと、モニターが重く固定してあるため使用する人の姿勢が固定されてしまったためです。一方、紙に印刷された文章や画像は読みやすいので長い時間読んでいても疲れることはありません。これは反射型表示であることと軽く持ち運び自由であることが大きな原因です。そこで、プリンターを使って紙に出力することが多く行われています。でも、どんな書類でもどんな紙に出力するようでは、地球資源の無駄使いになります。そこで、電子ディスプレイと紙の両方の良いところを持ち合わせた電子ペーパーの出現が期待されています。

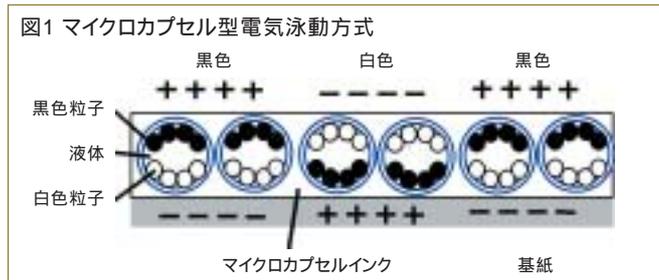
色微粒子を入れ、電圧を印加することにより、粒子を上下に電気泳動させて黒と白からなる画像を表示するものです。黒色粒子および白色粒子には、それぞれ酸化チタンおよびカーボンブラックの微粒子を用い、絶縁性液体中で互いに逆極性の電荷を持ち安定に分散しています。マイクロカプセル型電気泳動方式は内包粒子の凝集と沈殿の問題をカプセル化により解決した優れた方式である。



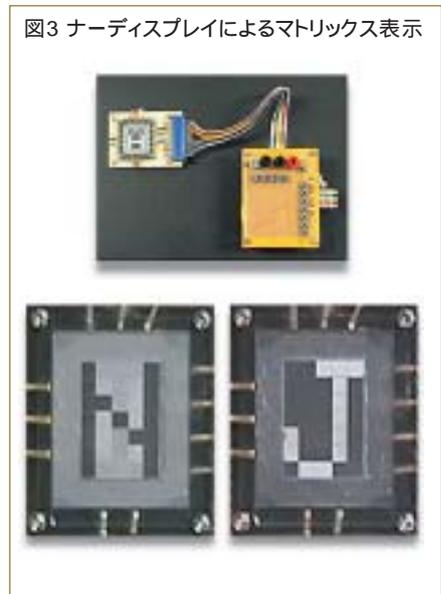
(2)空気中での粒子移動方式:
トナーディスプレイ
図2にトナーディスプレイの構造を示します。黒色粒子は正極性に、白色粒子は負極性に摩擦帯電しているため、電極に電圧を印加すると黒色粒子は負電極側へ、白色粒子は正電極側へ移動します。そのため、セルに負電圧を印加すると黒表示となり、正電圧を印加すると白表示が見えます。本方式の特徴としては高いコントラストと長時間の画像保持および閾値の存在が上げられます。現在、外部電圧が数百ボルトと高いことが問題であり、電圧低減の研究が続いています。

分野への応用が期待されています。
(4)国家プロジェクト研究体制
千葉大学工学系総合研究棟では国家プロジェクト『カプセル活用フルカラーリライタブルペーパー』が(財)化学技術戦略推進機構からの委託で実施されています。企業から派遣された研究員と博士研究員がそれぞれの研究を行い、材料とデバイスの研究が進められています。学科からは北村孝司教授(PL)、小林範久教授および大川祐輔助教が参加しています。

(1)マイクロカプセル型電気泳動方式
絶縁性液体中の帯電粒子の泳動を利用したもので、図1に示すように、透明なマイクロカプセル内に絶縁性液体と黒色および白



(3)利用
21世紀のコピキタス時代には、紙と同様な柔軟性を持ち、持ち運びが自由な電子ペーパーやそれを束ねた電子ノートの出現が期待されています。そして、電子新聞、電子値札、電子ポスター、電子掲示板、電子広告などへの広い



千葉大学画像工学同窓会 関西支部総会報告

昭和44年卒 滝田 進弘

2004年度の千葉大学画像工学同窓会関西支部総会は昨年度に続いて3年続けて祇園ばやしが響く京都の地で開催されました。当初22名の参加予定でしたが当日は24名と増員になりました。東京からは北村教授・岩崎助手・中村印刷雑誌編集長が参加されました。岩田会長から平成15年度の会計報告があり審議の結果、15年度会計報告はほぼ全員の賛成で承認されました。

続いて懇親会の開始ですが例年は井下先輩の乾杯の音頭で開始されるのですが今年は欠席のため一里山先輩の音頭で会がスタートしました。

今年は初参加の方も多かったので全員に近況報告をしてもらうことにしました。まずは学校の現状について北村教授・岩崎助手にお話してもらいました。学校も法人化で大きな岐路に立っているとお話でした。将来はこの会の有り方にも影響してくると思われます。各自の細かい話は省略しますが、その中で半導体・液晶といった今の最先端技術と言えどもその製造原理は印刷技術を応用しており画像工学出身者の活躍の場は広がっているとの話もありました。各分野で各人が活躍していることを改めて知りました。会も終盤になり例年通り楽隊がロシア民謡他、リクエスト曲を演奏し会を盛り上げてくれました。

最後に今年は趣向を変えて画像工学出身者の益々の活躍を祈願して「フレ-

フリー千葉大」のエールと拍手で会を終了・散会しました。



社会人1年生

近況報告

平成16年卒 大日 健嗣

私は、2004年4月より株式会社アートディンクというゲーム制作会社にて働いております。採用時の職種としては「制作進行」といった非常に曖昧な表現での採用でしたので、実際どういったことをするのかといった明確なビジョンが見えないままの入社となってしまいました。

しかしそのような「制作進行」という不明瞭な響きはもちろん日を追う毎に徐々に取れていき、おおよそ入社から1週間くらい経ったところには、結局のところ「外部と

の交渉」「スケジュール管理(進行管理)」「企画」といった3つが大きな仕事だということが判明しました。

4月から今までの仕事としましては、3つのうちの進行管理が主な仕事なのですが、補佐といった形で企画にも携わせて頂いております。さすがにまだ世にでている物で私が何かしらの形で関わった物というのは残念ながらまだ1つも無いのですが、今年末から来年頭くらいには、1つ2つくらいはお披露目されるかと思っておりますので、もしそのゲームを奇しくも触っていただいて、エンディング等で私の名前を見つけた際には千葉大学工学部画像工学科卒業生であること

を思い出していただければと思います。

近況報告とはいいいがたい見苦しい文章になってしまいましたが、社会人1年目の等身大の姿を、このつたない文章から感じ取っていただければと思います。

最後に私の今の思いを書かせていただきます。不況や少子化によるダメージを如実に受けて、ゲーム離れが著しく見られる昨今ではございますが、少しでもゲームを好きでいてくれる人たちがいる限り、このままゲームクリエイターたちが腐っていくわけにはいきません。これからのゲーム業界の巻き返しを期待していただければと思います。

社会人1年目、先輩方には負けません。

近況報告

平成14年卒 宮崎 竹馬

私は、平成14年春に情報画像工学科の1期生として卒業し、東京大学大学院を経て、今年の春、日本経済新聞社に就職いたしました。現在、製作局製作技術部という新聞製作技術全般に関する部署で、福岡県福岡市に新工場を立ち上げるプロジェクトに参加しています。そのため、月の半分は福岡に出張して忙しくも充実した日々を送っています。

新聞社は、「職種のデパート」と言われるように、仕事内容も多岐に渡っているので広く深い知識が求められます。私の場合は、印刷だけでなく建築やネットワークシステム等の知識が求められています。今後は、電気や機械の勉強もしなければ

ならず、「学生時代にもっと勉強しておけばよかった」とつい本音が出てしまいます。こんな私ですが、新人研修で新聞販売店に住み込みで働いていたときに、読者から「朝早くからご苦労様」と言われた事が大きな励みとなり日頃の原動力となっています。また、本業以外にも重大な事件が起こった際には号外要員として街頭で新聞を配る事もありました。休日には、記者や販売・広告の同期たちと酒を交わし、お互いの仕事の見識を深めたりしています。

そもそも就職したきっかけは、私が4年生の時、所属する日野研究室のOBであり日経に勤めている田摩さん(平成9年卒)に偶然出会ったことでした。それまで新聞社に技術系の部署が存在することすら知らなかった私は、この仕事に興味を持ち始め、大学院修了後日経に就職するに到りました。運命

の巡り合わせか、今は田摩さんと一緒に仕事をしていて日頃叱咤激励を受けています。

先輩といえば、学生時代に講義や本報で画像出身の先輩方の活躍を半信半疑で聞いていたのですが、いざ就職してみると社内や取引先メーカーにも先輩方がたくさんいらして、活躍している様子をの当たりにすることができました。さらに、先日行われた新聞製作講座では、他新聞社の先輩方にお会いする事ができ有意義な時間を過ごすことができました。「子供は親を見て育つ」と言いますが、社会人も先輩が活躍する姿を見ることで奮起し、成長するのではないのでしょうか。私は、偉大な先輩方を超えて活躍したいと思っていますので、そのための努力は惜しみません。

後輩諸君も先輩に負けないようにがんばってください。

同窓会からのお知らせ

2003年度(平成15年度)事業報告

1. 総会・懇親会

2003年9月27日(土)、第7回定時総会・懇親会が、東京ビッグサイト(IGAS2003会場内)で開催されました。

2. 技術講演会

2003年9月27日(土)、定時総会に先立ち、第4回技術講演会が東京ビッグサイト会場内で開催されました。三村到、矢部國年、北村孝司の各氏が講演をなさいました。(ご講演内容については、第6号の案内をご覧ください。)

3. 会報の発行

定時総会の案内を兼ね、平成15年8月に第6号を発行した。

4. 関西支部総会・懇親会の開催

2003年7月12日(金)、京都のロシア料理「キエフ」で開催されました。(この様子は、会報6号に掲載済みです。)

5. 卒業生を励ます会の共催

2004年3月23日(火)、卒業式の後、千葉大学学生会館において、情報画像工学科画像系との共催で、行われました。

6. 幹事会の開催

2003年5月14日(金)、蔵前工業会館にて、活動運営について検討しました。

2004年度(平成16年度)事業計画案 幹事会:平成2004年6月30日(火)

1. 定時総会および懇親会の開催

2005年2月3日(木)、第8回定時総会としては第8回。PAGE2005会場内。

2. 技術講演会

2005年2月3日(木)、総会の前に開催する計画。第5回。

3. 会報の発行

定時総会の案内を兼ねて発行する計画。

4. 関西支部総会・懇親会の開催

2004年7月10日(土)、キエフ(京都)

5. 卒業生を励ます会の共催

2005年3月23日(水)、千葉大学内学生会館(予定)。情報画像工学科画像系との共催

6. 第1回情報画像産学技術交流会への協賛

2004年11月19日(金)、千葉大学内自然科学研究科新棟。

画像工学同窓会 2003年度(平成15年)度会計報告案

平成15年4月1日～平成16年3月31日

収入の部

内 訳	予 算	決 算	差 額
前年度繰越金	8,693,240	8,693,240	0
総会会費	150,000	170,000	20,000
年会費・寄付	1,000,000	1,316,360	316,360
工学部同窓会より活動費	100,000	111,300	11,300
利 息	1,000	809	-191
小 計	1,251,000	1,598,469	347,469
合 計	9,944,240	10,291,709	347,469

支出の部

内 訳	予 算	決 算	差 額
委員会費	50,000	82,992	32,992
新卒者を励ます会	170,000	170,000	0
総会経費	300,000	292,867	-7,133
通信費	600,000	629,521	29,521
会誌編集発行費	250,000	331,506	81,506
活動費	150,000	0	-150,000
支部活動推進費	100,000	50,000	-50,000
雑 費	10,000	0	-10,000
慶弔費	30,000	0	-30,000
小 計	1,660,000	1,556,886	-103,114
次年度繰越金	8,284,240	8,734,823	450,583
合 計	9,944,240	10,291,709	347,469

次年度繰越金(平成15年度残高)内訳

定期預金(千葉銀行)	7,000,000
普通預金(千葉銀行)	1,296,326
郵便振替	385,090
現 金	53,407
合 計	8,734,823

from Editor

...編集担当から

「会員便り」の原稿募集

「千葉大学・画像工学同窓会会報」は7号となりました。次号も来年、次回の総会約1ヶ月前に発行予定です。本会報では次号の発行に向けて、皆様からの原稿を募集しております。会員の皆様の同期会や近況報告、職場での集まりなどの様子を誌面の許す限り掲載していきたいと思っております。下記宛先まで、お名前、卒業年をご明記の上、お送りください。多数のご投稿お待ちしております。なお、お送りいただいた原稿・写真等は返却できませんので、予めご了承ください。また、掲載につきましては、編集担当にご一任くださいますようお願い申し上げます。

千葉大学画像工学同窓会
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学工学部情報画像工学科内
TEL&FAX 043-290-3479 幹事長:北村
✉ 0001@faculty.chiba-u.jp 編集担当:岩崎

画像工学同窓会ホームページ

<http://image.tp.chiba-u.ac.jp/alumni/>



同窓会からのお知らせ

平成15年度に、下記の皆様よりご寄付を戴きました。厚く御礼申し上げます。

【10口】井下広(昭和15年)・田島又一(昭和16年)・斉藤重保(昭和18年)・小川圭一(昭和33年)・前原東二(昭和50年)

【9口】永谷宗次(昭和22年)・柏村寿一(昭和30年)・木村好雄(昭和42年)

【8口】三村到(昭和59年)

【6口】三浦英徳(昭和39年)

【5口】新見恵司(昭和23年)・水野隆治(昭和23年)・鈴木重敏(昭和33年)・田中尚安(昭和33年)・安藤邦郎(昭和34年)・田中恒雄(昭和36年)・大野隆司(昭和40年)・横山喬(昭和40年)・柳川明夫(昭和42年)

【4口】村田靖彦(平成9年)・平井二郎(昭和13年)・佐山享豊(昭和20年)・日高芳典(昭和24年)・山司康雄(昭和29年)・岩田克彦(昭和36年)・河野功(昭和37年)・正田章(昭和39年)・沼野博文(昭和39年)・遠田満(昭和44年)・星野和夫(昭和47年)・黒川豊治(昭和51年)・小林克彦(昭和55年)・鈴木英夫(昭和58年)・村田誠(昭和62年)・水澤伸也(旧教職員年)

【3口】貫井義昭(平成1年)・塙敬子(平成14年)・一里山泰造(昭和20年)・飯田均(昭和25年)・山田敏雄(昭和42年)・平賀祐二(昭和55年)・平野幸和(昭和58年)・馬場謙(昭和63年)・小門宏(旧教職員)

【2口】江越壽雄(昭和22年)・戸村久義(昭和16年)・中原雄太郎(昭和16年)・山本隆太郎(昭和18年)・蛭海進(昭和22年)・鈴木元治(昭和22年)・原正美(昭和22年)・藤本勲(昭和22年)・奥貴信(昭和24年)・藤瀬彦彦(昭和24年)・亀岡勇(昭和25年)・川又健一(昭和25年)・久保走一(昭和26年)・関根慶治郎(昭和26年)・越野政雄(昭和29年)・佐久間悌(昭和29年)・梅原剛(昭和30年)・高宮敬二(昭和30年)・長谷川泰政(昭和30年)・藤沢次(昭和31年)・岩瀬一美(昭和32年)・鈴木章方(昭和32年)・清水伸一(昭和32年)・勝田禎治(昭和33年)・土屋元彦(昭和33年)・三位信夫(昭和33年)・平本泰章(昭和33年)・高橋恭介(昭和34年)・味岡義久(昭和34年)・小野正和(昭和34年)・茂垣克夫(昭和35年)・今城力夫(昭和36年)・針谷昌男(昭和36年)・池田力ツヤ(昭和37年)・中川英文(昭和38年)・日比野繁雄(昭和39年)・倉本武夫(昭和40年)・大沢慎一(昭和41年)・手塚辰保(昭和41年)・榊原由典(昭和42年)・緑川洋行(昭和42年)・伊東寛治(昭和43年)・佐野和雄(昭和44年)・滝田進弘(昭和44年)・斉藤延夫(昭和45年)・石田浩男(昭和46年)・佐々木孝(昭和46年)・金子茂(昭和47年)・中田利久(昭和48年)・伊東郁男(昭和48年)・山田秀夫(昭和48年)・林努(昭和49年)・山本真理(昭和50年)・末光尚志(昭和53年)・芝木儀夫(昭和54年)・岡本実(昭和56年)・浅井禎和(昭和57年)・中村幹(平成2年)・岩崎賢太郎(平成2年)・郷間基臣(平成3年)・関谷建作(平成4年)・金子徹(平成5年)・高槻彰(平成10年)・徳田哲(平成10年)・湯本淑史(平成14年)・片倉宙(平成15年)・竹内一裕(平成15年)・文挾晋平(平成15年)・久保宏子(旧教職員年)・広橋亮(旧教職員)

【1.5口】三輪卓司(旧教職員)

【1口】宮武敏夫(昭和6年)・松島義昭(昭和13年)・平山秀樹(昭和16年)・篠原政男(昭和18年)・倉田宏(昭和18年)・篠原和枝(昭和19年)・小島康男(昭和22年)・土田俊一郎(昭和22年)・宮本勇(昭和22年)・木暮雄一(昭和23年)・清水豊(昭和23年)・山根節雄(昭和23年)・大塚明男(昭和24年)・中村正一(昭和24年)・真壁誠(昭和24年)・小貫秀雄(昭和25年)・岡田貢(昭和26年)・笹本邦司(昭和26年)・清水丈夫(昭和26年)・鈴木利男(昭和26年)・當間章雄(昭和26年)・原誠(昭和26年)・安野惟夫(昭和26年)・内藤敬直(昭和26年)・野村蔚(昭和26年)・野本拓夫(昭和26年)・福田國久(昭和28年)・小松康世(昭和29年)・金子実(昭和29年)・竹原悟(昭和29年)・

鈴木洋(昭和30年)・武田市太郎(昭和30年)・房木芳雄(昭和30年)・藤田互(昭和30年)・岩井實(昭和30年)・當麻守彦(昭和30年)・野本林(昭和30年)・熱田進(昭和31年)・木下堯博(昭和31年)・磯貝三郎(昭和31年)・山岸修(昭和31年)・小宮孝雄(昭和32年)・設楽清(昭和32年)・池田敏夫(昭和32年)・蛭原富司也(昭和32年)・佐藤要助(昭和32年)・半沢敏雄(昭和32年)・影山雅英(昭和33年)・高嶋宏昌(昭和33年)・木城茂雄(昭和33年)・森貞介(昭和33年)・会田源吾(昭和34年)・境野誠哉(昭和34年)・小山恵裕(昭和34年)・伊藤尹一(昭和35年)・関根二郎(昭和35年)・山田義彦(昭和35年)・柿崎謙介(昭和35年)・藤戸靖久(昭和35年)・森島毅(昭和35年)・冨井勝夫(昭和35年)・内田浩二(昭和36年)・相原康雄(昭和36年)・竹内修(昭和36年)・市川勝道(昭和36年)・黒川静(昭和36年)・伊藤忠義(昭和36年)・間嶋昭栄(昭和36年)・橋本博(昭和37年)・安達昭三(昭和37年)・占野靖幸(昭和37年)・佐戸進(昭和38年)・藤橋三千男(昭和39年)・南部国吉(昭和39年)・豊田芳州(昭和40年)・渡会一郎(昭和40年)・山崎孝(昭和41年)・菅原大作(昭和41年)・三浦貞太郎(昭和41年)・堀越仁(昭和41年)・樋口武(昭和42年)・丸山良克(昭和42年)・諸岡征之(昭和42年)・青山学(昭和42年)・大久保孝雄(昭和42年)・柏原克昭(昭和42年)・野中通敏(昭和42年)・滝島健治(昭和42年)・石渡農作(昭和43年)・田口慎一(昭和43年)・土屋宜司(昭和43年)・程谷隆(昭和43年)・堀江潔(昭和43年)・青木隆男(昭和44年)・久保田稔(昭和44年)・宇野正則(昭和44年)・照井與泰(昭和44年)・牧孝(昭和44年)・中島昭博(昭和44年)・原嶋克己(昭和44年)・鈴木武夫(昭和45年)・大野仁(昭和45年)・若本日出生(昭和46年)・煙山恵一(昭和46年)・広橋三三(昭和46年)・伊能喜一(昭和46年)・齋藤隆行(昭和47年)・安藤啓子(昭和47年)・塚越初雄(昭和47年)・寺沢賢一(昭和47年)・斉藤康夫(昭和47年)・島博昭(昭和48年)・平山徹(昭和48年)・山田義秋(昭和48年)・二見一男(昭和48年)・定田明(昭和48年)・加藤信行(昭和49年)・藤原道生(昭和49年)・伊藤文夫(昭和49年)・野崎和夫(昭和49年)・松川正男(昭和49年)・足立純一(昭和50年)・今井力(昭和50年)・沼沢義文(昭和50年)・下川原厚男(昭和51年)・山村隆(昭和51年)・若林春樹(昭和52年)・奥村信悟(昭和52年)・村上博高(昭和52年)・清水博(昭和52年)・小田透(昭和53年)・中村基継(昭和53年)・会田和夫(昭和53年)・川島誠(昭和53年)・平林俊樹(昭和55年)・宮下幸司(昭和55年)・渡辺幸保(昭和55年)・末光裕治(昭和56年)・鈴木敦(昭和56年)・若山裕康(昭和56年)・地斎和雄(昭和56年)・中村博明(昭和57年)・緒方俊文(昭和57年)・今場正好(昭和57年)・中田規夫(昭和57年)・中澤克紀(昭和59年)・宮田弘幸(昭和59年)・西川悟(昭和59年)・小村博史(昭和59年)・野田聡(昭和60年)・澤田好和(昭和60年)・高橋英夫(昭和60年)・寺西英司(昭和61年)・大原敬一郎(昭和61年)・村岡茂明(昭和62年)・丸山美恵子(昭和62年)・杉本和俊(昭和63年)・山本雅也(昭和63年)・篠田豊(平成1年)・金盛正樹(平成2年)・喜多村淳(平成2年)・金盛恵子(平成3年)・浜田聡(平成3年)・柳沢栄二(平成4年)・徳留勉(平成4年)・横山晶一(平成6年)・小川朗夫(平成6年)・東訓子(平成6年)・日比野哲也(平成6年)・山口修(平成6年)・鈴木慎也(平成8年)・中台綾(平成8年)・西川宏明(平成8年)・金木真人(平成8年)・木下正児(平成8年)・酒井伸和(平成8年)・高岡純一(平成9年)・松永直之(平成9年)・岸本靖彦(平成10年)・長岡亜希(平成10年)・橋本昌樹(平成10年)・水野達也(平成12年)・横山龍介(平成12年)・加藤圭絵(平成15年)・小杉健太(平成15年)・横手俊倫(平成15年)・辻内順平(旧教職員)

敬称略、()は卒業年。

卒業生を励ます会

情報画像工学科画像材料コース・画像システムコースを平成17年3月に卒業する学生を囲み、懇談会を行う予定です。情報画像工学科画像系と画像工学同窓会の共催で、卒業式(学位授与式)の終了後に行います。皆様是非ご参加下さいませようお願い致します。

予定日時：平成17年3月23日(水)午後2時頃

予定場所：千葉大学学生会館

年会費納入のお願い

会報発行などの同窓会の活動運営は、主に会員の皆様からの年会費でまかなわれております。正会員の皆様には、同封の振込用紙にて年会費(1,000円)を納入下さいませようお願い申し上げます。

なお、情報画像工学科卒業生には、在籍時の所属コースに関係なく、卒業生全員に送付いたしております。年会費の納入にご協力下さいませようお願い申し上げます。